

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590800355		
法人名	(有)ふあいん		
事業所名	グループホーム大花		
所在地	秋田県大仙市大花町5-26		
自己評価作成日	令和5年8月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和5年10月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆつくりとした時の流れの中、一人一人と十分に向き合い、可能な限り個々の希望や思いを受け止め願いに添えるよう、共に支えあい助けあって、まるで一つの大きな家族のように暮らしています。目に見える身体的な介護だけでなく、内面的な面までキメの細かいケアに力を入れています。駅から徒歩7分の立地のため遠方にご家族も面会に来やすく、商業施設も徒歩圏内にあるためお散歩と合わせて買い物に出掛けやすいですが、ホーム周辺は住宅街となっており静かです。犬を連れて歩く人や、登下校の子供の姿がみられ地域に溶け込んでゆったりと暮らしています。利用者、職員共に笑顔とコミュニケーションが多いホームだと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家庭的な環境での暮らしを目指すホームは、スタッフの男女比率や幅広い年齢層で構成されており、まさに家庭的な雰囲気である。スタッフが寿司職人の衣装を着て注文に応じる工夫や、正月は餅つき、粟名月に豆名月、手作りのきりたんぼや、いものこ汁等々、コロナ禍以前に増してホームでの食事が楽しみになるような工夫をしている。いかにして笑顔を引き出すかをコロナ禍において再挑戦する機会となっている。利用者喜んでいただく秘訣は「まずは雰囲気作りから。」とのこと。美しい花々が堪能できる近隣住民宅の庭園にお邪魔し、花に見惚れることもある。犬を散歩に連れ出す方が多い地域とのことで、住民と挨拶を交わし、犬と触れ合うことも習慣化している。スタッフ個々の特技や得意な面を大いに活用していることが、ホーム内の装飾や、体操・レクリエーション、行事等から感じることができるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的な環境で安心して暮らして欲しい」という理念を施設内に掲示し、支援の方向やケアの提供方法に悩んだ時は理念に立ち返り考え、共有し支援につなげている。	5年前の開設時に、当初のスタッフ全員で話し合い作成された「家庭的な環境で安心して暮らして欲しい」とのグループホームらしい理念は、～思いを受けとめ、暖かく寄り添います～との、副題も含め、実に分かり易くて明快である。困った時はこのホームの芯の考え方として、スタッフの拠り所として機能している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員や利用者が地域の方と顔を合わせた際には進んで挨拶を交わし、庭に咲いている花を見せてもらったりと、日常の何気ない交流を大切にしている。	四季を通じて美しい花々が堪能できる近隣住民宅の庭園にお邪魔し、花に見惚れることもある。犬を散歩に連れ出す方が多い地域とのことで、住民と挨拶を交わし、犬と触れ合うことも習慣化している。また隣接する小規模多機能事業所の納涼祭に顔を出している。半世紀以上前から続く、地元諏訪神社に奉納される大曲の『厄年梵天』、今年の2月には、25年ぶりに集結した中学の同窓生(大曲昭和56年会)がホーム前で、梵天を披露してくれた。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域の民生委員の方を通していただいた、認知症や施設についての疑問にお答えしたり、併設の事業所で行っている認知症カフェの手伝いを通して地域の方へ認知症や施設利用についての説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、写真を用いて普段の様子や行事の内容を伝えるようにしている。また、施設内で行った研修の報告と職員の感想も合わせて紹介し意見をいただいている。	隣接の小規模多機能事業所と合同で運営推進会議を年6回実施している。①入居者状況 ②健康状態 ③業務体制 ④行事内容の報告 ⑤今後の行事予定 ⑥研修報告 ⑦ヒヤリ・ハット報告を、毎回議題として取り上げている。地域の一人暮らしの高齢者が体調不良となり、遠方の家族から、民生委員に相談があった事例を取り上げたこともあった。欠席者には後日会議資料を配布し、意見等を聞き取っている。行事内容の報告では、行事での利用者の表情豊かな写真を紹介し、スタッフがいかにしたら利用者に楽しんでもらえるか、多くのアイデアを取り入れていることがとてもよく伝わる。町内会長、民生委員、家族代表が参加しているが、町内会長が毎回参加できるよう、開催日時を今後調整してみたいとのこと。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加はもちろん、日頃から介護保険制度についての不明点や、施設運営についての疑問点に対して助言をいただいている。	管轄の介護保険事務所等へは電話や電子メールを活用し、気軽に連絡を取り合っている。本年度は介護保険事務所から参加しているが、地域包括支援センター等、年度交代で関係部署が参加していることが、ホームの様子を理解いただく機会に繋がっている。都合により参加できない場合は、他部署より代理出席してくれている。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束適正化及び虐待防止について年間の研修計画をたて、全職員が共通の知識と理解をもっている。また職員間でコミュニケーションをこまめにとり、不適切ケアにつながる事例がなかったかケアカンファレンスで確認している。	身体拘束適正化及び虐待防止委員会が関連の3事業所合同で3ヶ月毎に開催されている。委員会で企画された研修会後、研修報告書を参加者が作成提出しており、受講者個々の研修での気づきが克明に記入され、研修担当者のコメントも確認された。	
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が研修会に参加し学んだことや、資料を事業所内で共有し、制度についての理解を深めている。また家族や関係者から問い合わせがあった際には、制度の説明や利用方法について助言できるように日頃から努めている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明の際には疑問や不明な点がないか確認しながら行っている。また質問等あればいつでも問い合わせいただける旨を伝え、不安なく施設利用していただけるように努めている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	契約の際に苦情や要望についての受付機関を伝えている。また面会時や日々のコミュニケーションを通して、ケアやサービスに対する意見や要望を聞き、施設運営に活かしている。	面会時に家族からいただく感謝の言葉が、スタッフの励みに繋がっている。研修内容を閲覧した家族から、「皆さんよく勉強している」等の感想も。家族との関係が良好なホームであることが感じられる。今後は、姪や甥がキーパーソンに移行する傾向を感じているとのこと。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	毎月行っている主任会議やケアカンファレンスを通して職員の意見や提案を聞き、必要に応じて管理者会議で伝え共有し、施設運営に反映させるようにしている。	スタッフ個々の特技や得意な面を大いに活用していることが、ホーム内の装飾や、体操・レクリエーション、行事等に感じられる。当日の体操で担当するスタッフの若く元気で楽しそうな声から、利用者もいつのまにか楽しく体を動かしていることが推測できた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長は地域密着型連絡協議会や市が主催の認知症施策の会議に参加し、ネットワーク作りや情報交換を行っている。		
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	何気ない会話の中から、不安な事や困りごとの要望を聞き出せるような関係づくりに努めている。またこれまでの暮らし方も大切に、安心して暮らせる環境の確保に努めている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との会話から不安や要望を聞き出し、施設側から病気やサービスについての情報を伝えることで、不安や疑問を解消できるように努めている。また要望等を気軽に話せるような関係の構築にも努めている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気作りを大切に、利用者一人一人に無理なく役割をもってもらい、皆で共に生活していると思えるような関係の構築に努めている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際は日々の出来事や健康状態を報告している。また受診の付き添いや不足品の補充、季節ごとの衣替え等、家族の負担にならない程度に協力をいただき、本人との関係が途絶えないように努めている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	要望があった時には電話や手紙のやり取りも可能な事を伝えている。コロナウイルスの状況も合わせて、可能な限り面会していただけるように家族にもこまめに施設の状況を伝えるように努めている。	コロナ禍における面会時のタブレットの使用について、家族へ広く紹介したが、タブレットの使用が不得手のためか、活用はあまりなかったとのこと。玄関先での面会や、たとえ短時間でも、ゆつくりと過ごせるよう外のベンチでの面会を工夫する等した。行きつけの美容院へ家族が送迎してくれたり、年末年始等に一時帰宅したりする方もいるとのこと。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	「おはよう。」「お茶飲みに行かないか。」と利用者同士が声を掛け合っている。職員はコミュニケーションを大切に、一人一人の思いに寄り添えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用を終了されても、本人や家族がどうされているのか、転居先の施設等に聞き取りを行っている。また退去の際には、何かあればいつでも相談してほしいと伝え、これまでの関係性をサービス利用後も大切にできるように努めている。		
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	希望や思いを把握できるよう、会話やコミュニケーションを大切にしている。また一人一人の思いに寄り添い、「出来ない事」に目を向けるのではなく「出来る事」を大切に、本人の立場に立った支援に努めている。	モップ掛けや、洗濯物干し洗濯物たたみ、食器拭き等々、今でも本人が出来ることを率先して継続してもらうよう心がけている。近くの自動販売機まで出かけることを家族からの希望も考慮しながら継続している。蒔等山菜の下処理や、干し柿作りも行っている。元主婦だった利用者の皆さんは、恵方巻も自分で海苔を板巻くのがとても上手とのこと。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や暮らし方、生きがいを尊重し、職員間で情報共有のもと、これまでのサービスの継続に加え、より安心していただけるようサービスの向上に努めている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	日頃から職員間での情報共有を大切にしケアに活かしている。また受診の際には主治医に近況を報告、受診後や状態変化の際には家族に報告し、聞き取った意見や希望を介護計画書に反映させている。	朝と夕の申し送りや、申し送りノートはスタッフの情報共有に欠かせないツールとなっている。ケアカンファレンスに参加できなかったスタッフは後日確認できるよう配慮している。歩行力の維持や病状の変化について、家族からの意見や要望を反映させている。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいたチェック項目を個人記録に設けて、職員が気づきや変化などを記載し、職員間で情報交換しながら介護計画の見直しの際にも活かしている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	契約の際に、これまでの暮らしの中で利用していた地域資源を聞き取り、希望があれば継続して利用できるように努めている。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約の際にかかりつけ医の変更は必要ない事を本人と家族に伝えている。主治医には受診の際に近況報告や状態について報告している。また薬の飲み方や副作用について薬局に確認したり、飲みやすい形状にしてもらったりと適切な医療がうけられるように支援している。	かかりつけ医や馴染みの薬局については、本人の状態を長きにわたり把握し対応していることから、特段の事情がない限りは、あえて変更は行わないことを方針としている。管理者が看護師であり、通院付き添いも主に管理者が対応しており、家族の安心感につながっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の日々の変化や状況を把握し、訪問看護師に伝えている。受診の必要性や、介護職にも可能な対応について助言をもらったりと、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院前の施設での様子を病院関係者に伝え、入院中でもできるだけかわりない支援が受けられるように努めている。また普段の定期受診の際も情報交換を行い、関係作りに努めている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に重度化についての指針を説明するとともに、本人や家族の意向を確認し、施設で出来る事出来ない事をわかりやすく伝え、方針を共有出来るように努めている。	急変し結果的に看取った事例は過去に存在する。ホームとしては出来る限り家族の要望に寄り添いたいとの意向であるが、医療的ケアの必要性に応じ、介護老人福祉施設等への移行も考慮している。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時のマニュアルを職員がいつでも確認できるようにしている。また、消防署主催の救急救命講習に全職員が参加し、応急手当や初期対応の実践訓練を行っている。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の火災時の避難訓練と、水害の避難訓練を行っている。訓練の際には市の職員からも参加いただき、地域住民の方にも運営推進会議を通して協力依頼し同意をいただいている。	「地域からどんな協力がもらえるのか、どんな協力をもらいたいのかを運営推進会議に回り、避難訓練にも可能な限り地域住民に参加してもらい、避難方法を確認したい。」との前回の外部評価結果を踏まえ検討した成果が確認できた。スタッフが駆けつけ住民役を演じる訓練も導入している。	
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴の際にも気持ちよく過ごしていただくために、表情や言葉、仕草などから思いを汲み取れるように努めている。	トイレ誘導の際は、声のトーン、声の大きさに配慮し、他人に悟られないようプライバシーに配慮している。また、その日その日の個々の表情や変化を汲み取れる様に心がけている。居室に入る際は、もちろんノックをすることを原則としている。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染の化粧品や、衣類などを家族と連絡を取り合いながら、本人が満足出来るように支援している。入浴等の着替えの際にも、本人と一緒に着替えを選び、希望や意向を大切に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じていただけるよう、職員が持ち込んだ山菜や季節の野菜の下処理を一緒に行ったり、調理方法を話したりと食事を作るときから楽しんでいただけるように努めている。また食後の片づけも個々の能力に応じて行っている。	全スタッフが持ち回りで調理を担当している。調理は互いに学習し合う機会でもあり、日々利用者に喜んでいただけるよう心掛けながら調理している。秋田県南部では、12月8日を病焼き(やまいやき)の日として、各地で病を払う行事が行われており、手作りおやきの焼き上がる甘い香りで満たされる。厄流しで残ったおやきは皆さんでいただくとのこと。スタッフが寿司職人の衣装を着て注文に応じたり、運動会には手作り弁当、クリスマスには色鮮やかな手作りのデコレーションケーキ。桜餅を利用者と一緒に手作りしたり、ひな祭りにはちらし寿司、正月に餅つき。粟名月に豆名月、手作りきりたんぼ、いものこ汁等々、コロナ禍以前に増してホームでの食事が楽しみになるよう工夫している。一般家庭での食事をいかにして再現し、笑顔を引き出すかを考えることでコロナ禍において再挑戦する機会となっている。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや調理方法について管理栄養士から助言をいただきながら、一人一人が十分な栄養や水分を摂取できるように支援している。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは個々の能力に合わせておこなっている。義歯や口腔ケア用品の消毒や交換は定期的に行っており、口腔内の清潔保持に努めている。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェックシートを使用し、排泄の有無やタイミングを把握できるようにしている。タイミングや習慣を把握することで、トイレでの排泄を継続できるように支援を行っている。	排泄の自立支援の重要性を認識し、日常生活の中で、個々の排泄のパターンをチェックシートにより把握し、その人なりの排泄の自立に取り組んでいる。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無や間隔をチェックシートから把握し、一人一人に合わせて牛乳や乳酸菌飲料の提供や、入浴時の腹部マッサージ、歩行運動等を行い排便の促しや予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	その日の健康状態も考慮しながら、入浴したいタイミングやお湯の温度等、可能な限り本人の希望に添えるよう支援している。入浴を一人一人とゆっくりコミュニケーションをとれる機会と捉えて、楽しんでいただけるように努めている。	香りを楽しめるようにと、当日も浴室から入浴剤の香りが漂っていた。午前中に利用する方が多いが、個々の温度の好みに対応し、順番を調整している。入浴は利用者スタッフが1対1になれる貴重な時間。「ホールではみんなの〇〇さん。風呂では私だけの〇〇さん」、入浴時はお気に入りのスタッフを独占できる時間であり、本人を理解できる又とない機会となっている。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の過ごし方や、その日の状態(身体面・精神面)を職員間で情報共有し、休息を多くとってもらったり、眠くなるまでホールでテレビを見たりと、その時々状況に合わせて支援している。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に変更があった際は申し送りで伝え、連絡ノート、個人記録に記載している。また副作用についても薬局や主治医から聞き取り、職員間で共有している。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの生活や日頃の様子から推察される好みや、楽しみ、役割を職員間で共有し、日々の生活に取り入れる事で張り合いや、喜びのある生活が送れるように努めている。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の体調や天候にも気を配りながら、ちょっとした時間でも散歩や日光浴をしたり、外にテーブルを出してお茶を飲む機会を設けている。また地域で行われる季節の行事には出来るだけみんなで出掛け、楽しい時間を共有できるように努めている。	比較的交通量は多いが、歩道が整備されており、コンビニまで歩いて買い物に出かけることもある。日用品や化粧品等を買いに車や徒歩でショッピングに出掛け、住民と挨拶を交わしたり、散歩中の犬と触れあうこともある。コロナ禍には、ドライブの窓越しに景色を楽しんだり、外のベンチで日光浴をする等、楽しみの共有に努めている。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理している利用者は限られているが、手元に現金がないと不安になられる方や、希望の飲み物を好きなタイミングで購入できるように所持している方もおられ、一人一人の希望に合わせて対応している。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が毎日快適に過ごせるように、施設内の清潔保持に力を入れている。季節に応じた壁の装飾も利用者と協力しながら作成し、施設内においても季節の移り変わりを感じていただけるような工夫を行っている。	築5年目のホームは実に気密性が高く、ホームのすぐ前の道路を通る車の音もまるで気にならない。全館床暖房、二重サッシから街並みや住民の気配が常に感じられ、通園児や登校児の様子が眺められる。薄いピンクのホールの壁、玄関からホールに入ると目の前に便利な手洗いが備えられ、まるで新築のペンションの様な空間になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事やレクリエーションの際に使用するテーブルとは別にソファとテーブルがあり、馴染の方とそこで会話されたり、レクリエーションの輪から少し外れて静かにテレビを見られたり一人一人が思うように過ごせる空間の工夫を行っている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際に馴染のものや、使い慣れた物を持ち込める事を伝え、入居後も本人や家族と家具の配置や日用品について意見を聞きながら心地よく過ごせるように工夫している。	さりげない花模様の白がベースの明るい壁、テレビ台兼用のタンス、介護用ベッドが備え付けられている。高気密で夏も冬も過ごしやすい環境である。季節を感じられるようあえて外に出て、外気に触れるよう配慮している。見学者からいつも好評の居室である。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設全体に手すりを設置している事で、歩行が不安定な利用者も安全に移動できるようにしている。また案内表示や居室のネームも本人に確認しながらわかりやすい表示にできるように工夫している。		